

## 視察研修報告書

報告者 合田良雄

報告年月日	平成 26 年 12 月 28 日	
参 加 者	釜石市議会海盛会（合田、赤崎、川崎、海老原）	
視察期間	平成 26 年 11 月 13 日（木）～平成 26 年 11 月 15 日（土）	
視察先及び 用務・対応者	(1) 萩市「世界遺産登録に向けた 取り組みについて」 萩市役所議会事務局長 藤岡敏彦氏 (2) 「萩しーまーと」（道の駅） " 係長 戸禰寛尚氏 (3) 三木市「縁結び課の取り組みについて」 三木市役所縁結び課長 成瀬拓生氏	

### 結果・経過・所感

#### [1] 萩市（11/13（木）9時～10時）…人口 5万2千人

萩市も「明治日本の産業革命遺産 - 九州・山口と関連地域」の構成メンバーとなっており、イコモス（国際記念物遺跡会議）の調査員が釜石市を調査した後に訪れたところが、この萩市の 5 遺産（①「萩反射炉」、②「恵美須ヶ鼻造船所跡」、③「大板山たら製鉄遺跡」、④「萩城下町」、⑤「松下村塾」）である。

萩市は、日本の近世社会を切り拓いた城下町の顕著な都市遺産であり、有形・無形の遺産群が織り成す総合的な価値の体系であり、市民の生活や生業の中で使いこなされ、住みこなされながら生きた遺産として受け継がれ、城下町の典型的な空間や景観、生活文化を顯示する都市遺産として顕著な普遍的価値を持っている。そして町中が屋根のない博物館になっており、世界遺産としての規制が強化されることに対しては、もうすでに景観条例や文化財保護法等で、町並みを生きた遺産としてしっかり受け継いでおり、世界遺産に対する準備は怠りないようである。

構成遺産の「松下村塾」へ事務局の方に案内して頂いた。この塾からわずか 2 年 10 か月の短期間で 100 人近くの世の中の役に立つ逸材を輩出した事実は注目される。総理 2 人、大臣 4 人、知事 4 人、そして村長、教師なども多くこの塾から出ている。松陰は、全員に政治家や革命家になれとは言っていないで、それぞれの持場、立場で全力投球することを教えていた。一人一人の能力差を肯定的に受け入れ、個人の持つ潜在的な可能性を全力回転させるという考え方だった。松陰教育の基本は個別教育で、個の良さを見つけてぐーっと伸ばしていくサポーター役。共に学ぼうという発想であり、マンツーマン教育が基本であり、たくさん集まると「君の考えは？」と周囲にも質問して、そのうちお互いに質問させあって、共同学習のようなことを行う。また松陰は、口で言うと消えるからと、やたら手紙を書いた。いざれ何事も教育が基本だということを考えさせられた「松下村塾」である。

反射炉、たら製鉄遺跡、城下町、松下村塾等歴史の重み、深さがぎっしり詰まっている萩市であった。元々、観光としても成り立っていた町であるが、世界遺産のお墨付きがあると、なお注目され、全国的にも訪れてみたい町のトップクラスとなるであろう。景観条例で町中の看板、販売機、壁も古風な茶色で統一されており、白壁があり、玉石で造られた水路があり、とにかく美しい町並みの保存に徹していた。偶然訪れた所で、萩市の議員にお会いできたが、この方は、鬚を結っていて、着物を着て、まさに江戸時代の人であった。この方には、橋野高炉跡にも来て頂いていて、まさに世界遺産



と一緒に取り組んでいるという親近感を感じたところである。町並みも、そこに住む人々も、まさに世界遺産の萩市であった。

## 〔2〕道の駅「萩しーまーと」

この施設は、当初は第3セクター方式で進めることとしていたが、その後、第3セクター方式は責任の所在が不明確で、全国的にも少ないとことから、民主導に方針を変更したこと。また、「萩・魚センター」（仮称）が成功するためには、①民間業者に責任ある参画をしてもらうために、参画業者に出資組合の設立を求めた。②経営責任者を全国公募した。③萩市は観光地ながらもシーズンオフがあり、観光客対象では周年的な経営が成り立たないため、ターゲットは地元消費者。

この道の駅の特徴は、①地産地消の実践で、地元仕入額は年間5億円で半分は魚市場から仕入れる。②萩・魚食王国プロジェクトの推進など地域外からの広域集客に注力する。③現状実績の維持である。いずれ平成13年4月オープンのこの施設は、今まで萩において、萩の魚を食べられるところがなかった地元住民からも支持され、週末で1日5千人、平日で1日2千人、年間140万人を超える集客で賑わっている。

釜石も「道の駅」が平成27年4月末にオープンする。「萩しーまーと」のように、地元消費者のニーズに答え、地産地消の新鮮な産物を品揃えし、必ず寄ってもらう工夫を考えなければならないと思う。位置的に「寄りづらい場所」と諦めているところもあるが、魅力ある地場産品、そこにしかないものを揃えて、賑わいのある釜石の「道の駅」にしたいものである。また、萩が経営責任者を全国公募して成功を収めたように、釜石も全国の成功事例を参考にしながら、ぜひ魅力のある「道の駅」の管理運営を進めていきたいものである。

## 〔3〕三木市「縁結び課」の取り組みについて（11／14（金）PM 2:00）…人口8万人

出会い、住居探し、定住までの切れ目ない支援を実施し、若者の定着促進を目指すもので、特徴はサポーターという相談員を設けていることで平成26年度で34名（男性13名、女性21名）の登録があり、相談者登録数も年間120名を数えている。お見合い件数も年間500件は超える勢いで、成婚数も54件となっている。

この事業のキーポイントは、相談員（サポーター）にあって、この人達は、役に立つことはないかということで使命感に燃えている60代～70代のおじさん、おばさんである。決して上から目線ではなく、良き相談相手に徹している。

いずれ今、生涯未婚率は、女性1/5、男性1/10であり、恋愛が面倒だ。趣味に力を入れたい。仕事、勉強に力を入れたい。経済的な理由で…。と出会いの場に積極的でない若者が多い。出会いの場を積極的に作り、結婚して地元に住んでもらう。このトータルサポートをするのが縁結び課の仕事と熱意をもって説明して頂いた。成婚したカップルの感想として、民間の結婚相談所より当市の「縁結び課」の方が、個人情報の問題としても安心できるということが強く印象に残った。

釜石も人口減少対策として、U・Iターン等による定住人口の拡大や若者の地元定着に向けた施策を展開しようとしている。「くろがね・ぎやざりんぐ・ふれーす事業」なども縁結びのきっかけづくりになる。市当局はぜひフォローをしっかりと行いながら、安心できる相談窓口に徹してほしいものである。

萩市役所



道の駅  
「萩しーまーと」  
会議室



松下村塾





萩反射炉



松下村塾

